

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「いのち、尊厳限りないもの ～となりびととなるために～」

— 2023年宣教協議会に向かって —

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

(ヨハネ15:5、聖書協会共同訳)

今年こそは、コロナが終息し、少しでも争いや差別・偏見のない平和な世界へと向かうことを祈り求めたいと思います。

「いのち、尊厳限りないもの」は、2012年の宣教協議会の主題でした。2023年の宣教協議会もこの主題を引継いでいます。

一人ひとり、一つひとつの「いのち」は神さまから与えられた唯一無二のもの、教会のすべての働きは、その尊厳限りない「いのち」に寄り添っていくことを再確認したいと思います。そして今回の宣教協議会の副題は、「宣教する共同体のありようを求めて」から「となりびととなるために」となっています。まずはイエスさまが私たちの隣り人となってくださり、呼び集められていることに感謝し、ぶどうの木であるイエスさまの枝にしっかりと繋がって、教会がたてられた私たちの地域社会の中で、出会うべき隣り人とは誰なのかを意識し、神さまの宣教の業に参加していきたいと思ひます。

この取り組みを丁寧に広めていくことで、私たち日本聖公会の実りが豊かにされていくと信じ、歩みを起こす1年でありたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

2023年宣教協議会

11月10～13日、清里・清泉寮にて



宣教協議会のブログ

<https://2023-missionconference-nskk.blogspot.com/>

各教会でも「2023年宣教協議会のための祈り」を用いてお祈りください。

□会議・プログラム等予定

(2023年1月25日以降・前回来掲載分)

1月

- 17日(火) 宣教協議会実行委員会 [Zoom]
- 30日(月) 宣教協議会実行委員会 [Zoom]
- 31日(火) ナザレ委員会 [ナザレ]

2月

- 1日(水) 人権問題担当者会議[Web]
- 4日(土) 原発はやめようZoomカフェ [Web]
- 4日(土) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 5日(日) 各教区青年担当者会[Web]
- 6日(月) ～8日(水) 主教会 [高知]
- 7日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 13日(月) いのちを見つめる祈りの集い(憲法P) [Web]
- 14日(火) ～16(木) 管区共通聖職試験 [各教区]
- 21日(火) 年金委員会 [+Web]
- 21日(火) 財政主査会 [+Web]
- 23日(木) ハラスメント防止・対策担当者会 [+Web]
- 24日(金) 主事会議 [管区事務所]
- 27日(月) 常議員会 [管区事務所]
- 28日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議 [+Web]

3月

- 3日(金) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会[管区事務所]
- 8日(水) 聖公会/ルーテル教会協議会 [Web]
- 9日(木) セーフ・チャーチ・WG会議 [管区事務所]
- 13日(月) いのちを見つめる祈りの集い(憲法P) [Web]
- 14日(火) 管区共通聖職試験委員会 [Web]
- 16日(木) 宣教協議会ぶどうの枝分

(次頁へ続く)

※管区事務所の就業時間

当面の間、新型コロナウイルス対策のため、就業時間を平日(月曜～金曜)10:00～17:30 全員出勤勤務体制といたします。

(前ページより続く)

ナザレのウエハースについて

この場をお借りして、長年ナザレ修女会で作られてきたウエハースの事をお知らせいたします。今年2月で製作を担ってくださった方が退職の年齢を迎えられ、体制が変わります。近隣教区・教会のボランティアの方々と、製作を引き継いでいきたいと考え、準備を進めています。1月から数か月間、ウエハースの製作がストップし品切れとなっておりますが、いずれ体制を整えてお知らせできると思いますので、少しの間ご不便をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一



□神学校

聖公会神学院

- ・2022年度卒業礼拝<第103回卒業礼拝>
2023年3月1日(水) 13時半～ 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 司式:校長 司祭 中村邦介 説教:主教 高橋宏幸(東京教区)
卒業予定者:聖職候補生 パウロ福永 澄(東京教区)、聖職候補生 セバスチャン染谷孝章(横浜教区)

📖 管区・出版物案内

- ・『日本聖公会要覧 2021～2022』
2022年12月25日発行 頒価1,000円(税込)
お求めはバイブルハウス南青山 TEL03-3567-1995
にお願いいたします。
(お問合せは管区事務所まで TEL03-5228-3171)

(前頁より)

科会(祈祷書改正委員会編)
[Web]

24日(金) 集積事業委員会 [+Web]

<関係諸団体会議・他>

- 1月20日(金) 日本宗教連盟研修会 [増上寺]
- 25日(水) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]
- 26日(木) WCRP 新春学習会 [立正佼成会]
- 26日(木)～27日(金) 外キ協全国協議会・全国集会(川崎)
- 27日(金)～2月3日(金) USPG 国際協議会 [タンザニア]
- 2月1日(水) NCC 関東大震災犠牲者追悼のつどい実行委員会 [Web]
- 7日(火)～13日(月) 聖公会東アジア礼拝協議会(ALNEA) [台湾]
- 9日(木) NCC 役員会・常議員会 [Web]
- 12日(日)～19日(日) 全聖公会中央協議会 (ACC-18) [ガーナ]
- 3月1日(水) 聖公会神学院卒業式 [用賀]
- 12日(日) 日本人宣教100周年記念感謝礼拝 [ブラジル・サンパウロ]
- 10日(金) ウィリアムス神学館卒業式 [京都]
- 27日(月) NCC 役員会 [Web]

†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨハネ中道政昭(神戸教区・退) 2023年1月4日(水) 逝去 (96歳)



公 示

救主降生 2023年1月10日
 日本聖公会首座主教
 主教 ルカ 武藤謙一 ㊞

神のおゆるしがあれば、
 主教被選者 司祭 フランシス 長谷川清純 師の主教按手式および日本聖公会東北教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。
 主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代禱を求めます。

記

日時 : 2023年4月22日(土) 午前10:00 ~

説教者: 主教 マリア・グレイス笹森田鶴 師 (北海道教区主教)

場所 : 日本聖公会東北教区主教座聖堂 (仙台基督教会)
 〒980-0803 仙台市青葉区国分町 2-13-15

※祭色は白を用います。

以上

《人事》

北海道

聖職候補生 エリザベト三浦千晴

2022年11月22日付 聖マーガレット教会勤務および札幌キリスト教会協働勤務の任を解く。

2022年11月23日 公会の執事に按手される。

執事 エリザベト三浦千晴

2022年11月23日付 聖マーガレット教会牧師補および札幌キリスト教会協働執事に任命する。

東北

<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可> 2023年1月1日付 (任期1)

(青森聖アンデレ教会) ミカエル石黒信平、アタナシオ石場広樹、ダビデ石場正樹、マイ木村俊昭、ギデオン白鳥五大

<信徒奉事者認可> 2023年1月1日付 (任期1)

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会) ルーシー加藤まり子、シリアのエフレム亀井浩一、パウロ菅野覚、イスラエルヤコブ三宅哲、アグネス三宅裕子、ヨハネ柳沼芳裕

東京

司祭 セラピム高橋 顕	2022年12月31日付	目白聖公会牧師解任 神田キリスト教会管理牧師解任
	2023年1月1日付	小金井聖公会副牧師任命
主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸	2023年1月1日付	目白聖公会管理牧師任命
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2023年1月1日付	神田キリスト教会管理牧師任命

京都

アンデレ谷口 寛	2023年1月1日付	嘱託職員として勤務することを委嘱する。 教務所主事に任命する。(任期1年)
司祭 セオドラ池本則子	2023年3月31日付	橋本基督教会および笠田基督教会牧師の任を解く。五條聖三一教会管理の委嘱を解く。 定年により退職とする。
司祭 セオドラ池本則子(退)	2023年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、橋本基督教会および笠田基督教会、五條聖三一教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
主教 ステパノ高地 敬	2023年4月1日付	橋本基督教会および笠田基督教会、五條聖三一教会の管理を委嘱する。
司祭 パウラ麓 敦子	2023年3月31日付	主教座聖堂付の任を解く。京都聖ヨハネ教会礼拝協力の任を解く。願いによって退職を許可する。
司祭 クレメント大岡 創	2023年3月31日付	京都聖三一教会および聖アグネス教会牧師の任を解く。
	2023年4月1日付	京都聖ヨハネ教会牧師に任命する。
司祭 サムエル小林宏治	2023年3月31日付	聖光教会牧師の任を解く。彦根聖愛教会管理の委嘱を解く。
	2023年4月1日付	京都聖三一教会および聖アグネス教会牧師に任命する。
司祭 アントニオ出口 崇	2023年3月31日付	京都聖ヨハネ教会管理の委嘱を解く。
	2023年4月1日付	聖光教会の管理を委嘱する。
聖職候補生 ダビデ梁 權模	2023年4月1日付	日本聖公会聖光教会管理牧師司祭アントニオ出口崇のもとで勤務することを命じる。
司祭 サムエル奥 晋一郎	2023年4月1日付	彦根聖愛教会の管理を委嘱する。
聖職候補生 サムエル藤井和人	2023年4月1日付	日本聖公会福井聖三一教会管理牧師主教ステパノ高地敬のもとで勤務することを命じる。
司祭 アンデレ松山健作	2023年4月1日付	福井聖三一教会協働司祭に任命する。
司祭 ルカ柳原健之	2023年4月1日付	福井聖三一教会協働司祭に任命する。
司祭 モーセ石垣 進(退)	2023年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、岸和田復活教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱す

		る。(任期1年)
司祭 テモテ宮嶋 眞(退)	2023年4月1日付	大阪教区からの要請を受け、桃山学院に囑託のチャプレンとして出向することを許可する(任期1年)
司祭 バルトロマイ三浦恒久(退)	2023年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、新宮聖公会において、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ江渡由直(退)	2023年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

大阪

司祭 ペテロ金山将司	2022年12月31日付	川口基督教会勤務の任を解く。
司祭 バルナバ小林 聡	2023年1月1日付	聖贖主教会、大阪聖パウロ教会、高槻聖マリヤ教会牧師に任命する。
司祭 マルチン韓 相教	2023年1月1日付	聖贖主教会、大阪聖パウロ教会、高槻聖マリヤ教会牧師に任命する。
司祭 ペテロ竹林徑一(退)	2023年1月1日付	高槻聖マリヤ教会第3主日囑託勤務を委嘱する。(任期3月31日)
	2023年3月31日付	高槻聖マリヤ教会囑託の任を解く。
司祭 ジョイ千松清美	2023年1月20日付	入院・加療・療養のため休養を命じる。 石橋聖トマス教会牧師、東豊中聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。期間は2月28日までとする。
司祭 テモテ内田 望	2023年1月20日付	石橋聖トマス教会、東豊中聖ミカエル教会管理牧師に任命する。期間は2月28日までとする。
司祭 ヤコブ松平 功	2023年3月31日付	守口聖オーガスティン教会牧師の任を解く。 桃山学院教育大学チャプレンの任を解く。
	2023年4月1日付	大阪聖アンデレ教会牧師に任命する。 桃山学院中高チャプレンとして出向を命ず。
司祭 ヤコブ義平雅夫	2023年3月31日付	大阪聖アンデレ教会牧師の任を解く。 桃山学院中高チャプレンとしての出向を解く。
	2023年4月1日付	守口聖オーガスティン教会牧師に任命する。

九州

<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可>	2023年1月1日付(任期1)
(福岡聖パウロ教会)	有村元伸、園木一男、酒井健、下村仁士
(小倉インマヌエル教会)	東美香子、石垣献、河原忍、金野実加枝、櫻井隆一
(佐世保復活教会)	辻裕子
(鹿児島復活教会)	岡積正子、川崎祐子、大内新子、森田誠也、岡積文夫
<信徒奉事者認可>	2023年1月1日付(任期1)
(福岡ベテル教会)	蓑田裕子

(久留米聖公会) 真木信行
 (「佐賀聖ルカ教会」伝道所) 佐藤群
 (熊本聖三一教会) 秋山みどり、島卓郎、中山泰男
 (大分聖公会) 古澤正之、小河正雄



『聖公会手帳』 2023

各教区事務所・教務所の協力のもと刊行いたしました!



☆日本聖公会
管区事務所責任編集

好評発売中

(完売) 大判型 2,200円
 ポケット版 1,200円
 (税込)

ご注文は、バイブルハウス南青山
 (03-3567-1995) またはお近くの書店まで!

- ✦ 読者アンケートからの利用者の声を誌面に反映。
- ✦ 2023年度 教会暦・日課表を完全収録。
- ✦ 祈りのページを大幅に増補。

(写真はイメージです)

特集 2022年 各教区人権担当者の集い**神さまのみ旨に寄って立たせられているもの**

～ 2022年各教区人権担当者の集いを終えて～

人権問題担当主教 主教 イグナシオ入江 修

人権は、私たちキリスト者にとっては、神さまの創造のみ旨に寄って立つことということによって尊ばれるべきものとなっています。そこを離れては、むしろ人間至上主義に陥ってしまうでしょう。それは、人間を思い上がらせて尊大にし、造り主の御心から離れて自らの思いを何ものにも勝るものとし絶対化してしまいます。それは、神さまから「食べるな」と命じられていた木の実を、自らの「食べたい」という思いによって食べてしまったアダムとエバの墮罪に示されている人間の罪なのです。神さまによって望まれて存在させられた一人ひとりであるからこそ、その人の存在は互いに尊ばれなければなりません。

しかし、実際には、自らの権利だけを主張して他者を顧みず、自分の思いを実現させるためならば、他者の存在をなどには目もくれない現実があちこちで生じています。

直接的に他者の生活や命を脅かす戦争をはじめ、貧困や飢餓、環境問題、原発によって生じる放射性廃棄物や放射能による汚染の問題、差別や虐待、搾取や貪欲など、その根底に共通しているのは、神さまが尊い者として造られた一人ひとりの存在を蔑ろにしているという現実であり、無関心であり、他者の痛みに対する鈍感さなのではないでしょうか。

人権問題は、被造物に過ぎない人間の尊大さが引き起こす、神さまが望まれて存在させられたそのみ心に対する挑戦といえます。そして、人権問題は人の尊厳を犯すという意味では、この世界のすべての問題に関わっています。

今回、各教区の人権担当者の皆さんといっしょに参加したのは、横浜市内にある寿町で毎週行なわれている炊き出しボランティアでした。嘗ては日本の三大寄せ場といわれていたところですが、現在は「福祉の町」といわれており、独り身の高齢の人たちが多く生活している町です。

そこで炊き出しを支えている大勢の先輩ボランティアの皆さんのお仲間に加えていただき、朝はまず材料の野菜を洗って食べやすい大きさを心掛けてそれを刻み、お昼からは炊き出しの配食と食器の洗浄作業に加えていただきました。初めてのことでしたが、丁寧に教えていただきながら、炊き出しを体験しました。

そこは、周囲に建ち並ぶ簡易宿泊所のビルの谷間の一角にある公園でしたが、本田哲郎神父が言われていた「低みに立つ」とはこういうことだったのではないかと改めて思いました。

本田神父は、イエスさまが洗礼者ヨハネからヨルダン川で洗礼を受けられたことを、この地球上の最も低い所に位置する死海へ流れ込むヨルダン川で、イエスさまがその身を屈まれて水に浸かることを通して、「最も低きに立たれた」と述べておられます。

生活保護を受けておられる方が多くおられましたが、主の祈りにある「日ごと糧を今日もお与えください」という一節が現実のものとして世界に身を置くという貴重な出来事でした。

以前、もう5年以上前のことですが、寿町から歩いて20分ほどのところにある横浜山

手聖公会に勤務していたころ、教会では「寿町プロジェクト」の一環として、季節に応じて衣類や生活用品、それにお米といった支援物資を集めて信徒の人たちと運ぶことができました。それとは別に、時々、食べ物が必要と夜、司祭館に訪ねて来る一人の「おっちゃん」がいました。何日も続けて訪ねてくる時もありました。その時は、「また」と少し煩わしく思うことも正直あったのですが、しばらく顔を見ない時は逆にどうしているのか、ちゃんと元気なのか心配になったこともありました。

今回の炊き出しではそんな「おっちゃん」たちにたくさん会いました。炊き出しに公園に集まってくるのは、単に食事のためだけでなく、そこはお互いの社交の場であり、また安否確認の場でもあるそうです。だから、天気が悪くても、また夏でも冬でも、たとえコロナであっても、休みなくずっと続けられているとのこと。そ

こに生活している一人ひとりの「おっちゃん」たちの命に関わることで、簡単には休止できないという責任の重さをひしひしと感じさせられ、炊き出しを支えている人たちには、実に頭が下がる思いです。

「神は愛です」とヨハネの手紙一の著者は宣言しています。そのことを私たちに現わされたのはイエスさまです。そして、その愛の反対は無関心といわれています。つまり、心が動かないこと、敢えて心を動かそうとしないことです。

心を動かすには、イエスさまが「行って同じようにしなさい」といわれているように、まずは行ってそこに立つということです。そして、ヨルダン川に身を沈められたイエスさまが私たちに行くようにと命じられているのは「高み」ではなく、このような「低み」であり、そこに神さまは独り子であるイエスさまによって、ご自身が造られた者への愛を現わされたのです。

「2022年各教区人権担当者の集い」を終えて《総合報告》

—横浜・寿町の現実に触れる—

人権問題担当者 司祭 ヨハネ松浦 信 (北関東教区)

2022年12月8日と9日横浜を会場として、各教区人権問題担当者の集いを行なった。1日目は、横浜山手聖公会(横浜教区)のホールを会場とし各教区の人権にかかわる取組についての諸報告、管区の人権問題担当者からの報告、そして翌日行なう寿町での炊き出しについてのレクチャーを寿地区センター主事の汀なるみ氏よりいただいた。

各教区の人権への取り組み

各教区からの取り組みについては、教会内部の問題としてハラスメントの問題とセーフチャーチへの関心、また聖路加国際病院においてハラ

スメントに関しての関心の高さなどが伺われた。外への取り組みとしても各教区が教派や宗教を超えての取り組みなどの報告があった。

ある担当者のご意見が非常に印象的であったのでご紹介する。人権と教会の衰退との間に密接な関係があるのではないかとと思うこと、特に教会は‘命’に関わることをしなくなれば教会の‘命’をも失っていくのではないかと、という旨のことを仰った。

わたしは、‘命’に関わるというこの言葉が非常に印象的に受け止め、おなじことばが翌日の炊き出しにおいてもわたしの中で引き継がれていくのであった。

コトブキ町について学ぶ

汀氏からのレクチャーの内容を記す。まず寿町とは何かということについて、その成り立ちから現在に至るまでをお話くださった。

もともと、この地域は海が入り込んだ埋立地。戦後進駐軍の物資や食料を置いた場所でのこの場所での労働の需要が高まった。横浜の港からはしけを用いた人海戦術。その後湾岸の工事が進みコンテナで運べるようになると湾岸の道路を整備すべく土木工事に労働の需要が移っていった。

これらの労働力はその日調達の日雇いが主、その日の労働を企業が得るために、その日の朝決まった時間に集合しその労働者と契約をする場が寄せ場であった。

高度経済成長や東京オリンピックの影響で人口も急増したが、1973年のオイルショックから景気が後退し徐々に仕事の量が減っていった。仕事が減っていく中で、労働者は昼だけではなく夜も働かなければ、生きていくことができなかった。

「どや」と言われる宿泊所は、夜寝るだけの場所であり安い値段で2畳から3畳ほどの場所で今ではマンションふうにはなっているが、お風呂はなくテレビとエアコンのみの狭い部屋である。

かつては、労働の場所であった寿町は、今では福祉の場となっている。高齢者が多く生活保護によって生活している人も多い。介護施設が増え、ケアマネや介護士も若い人も以前より増えている。

炊き出しの準備に参加

2日目は、寿公園に朝8時集合。既に中心的なスタッフは朝7時には準備を始め、ボランティアを受け容れるのに必要な準備などを行って。朝は野菜の皮を剥いたり切ったりする作業を手分けして行なった。40人から50人ぐらいのボランティアが集まり、様々なグループと個人的参加している方もおられた。

写真と手順をパウチしたものが準備してあった。小さく薄く切る必要があるものが多かった。その時に口頭でも説明があったのは、集まる人の

中で高齢者の比率が高く収入が少ないために歯の治療をせず歯を失っている人が多いため、なるべく小さく切るのだと言う。



(食材の野菜を洗う。)

炊き出しのメインのメニューは、野菜など具だくさんのお粥である。味が同じようにならないように、塩味、みそ味、しょうゆ味をローテーションさせているとのことである。大きな特別のお鍋で半分蒸すように、柔らかく炊き込む。

また限られた所持金で日頃食材を買う時には、どうしても野菜よりは肉や魚を購入してしまう。だから炊き出しの時にはなるべくたくさんの種類の野菜を手軽に取れるように、工夫をいれる。当日は約10種類ほどの野菜が準備されていた。

スタッフの人もボランティアの人も、なぜそうするのかなどいろいろ説明を聞きながら心を込めて食材を取り扱っていたと思う。はじめ野菜の皮を剥いて人が群がっていたので、すこし離れたところにある籠に少し投げるように入れたところ、叱られた。「投げてはいけません」と。食材を大切にするのは、これを食している方々を大切にすることなんだと思った。



(使用した食器は入念に洗浄する。)

コトブキ地域のフィールドワーク

10時ごろに一連の作業が終了し、スタッフは処理された食材を炊き込むなどの作業があるのだが、各教区人権担当者のわたしたちは、この炊き出しのスタッフである寿日雇労働者組合の近藤昇さんに、寿町の中をご案内していただいた。

わたしたちの人数が多いのと、外での雑音が多いため、説明が聞き取りにくいことが多くすべについてここでお知らせできないのが残念であるが、聞き取れた範囲でお知らせする。

横浜ことにこの地域の近隣に住む人々が、例えば子供などに絶対この地域を通ってはいけないということを行っている。この地域を通ることに非常に悪いイメージを植え付けられている。

宿泊所の宿泊料の構造などお話しして下さったが、詳しくは覚えていない。

高度成長期河川敷など小屋を建てて住んでいる人もいたが、横浜市の事業で河川敷に木を植えるという名目で立ち退かせた後、木は植えられたなかった話。

ある公園は、決められた時間を過ぎると夜は閉鎖される。つまり野宿ができないようにされている。

今は老人が多く、デイケアなどの施設が多い。一人一人を見守る必要がある。

ガイドのために忙しい時間を割いて、わたしたちのために多くの説明を下された近藤昇さんに心から感謝申し上げます。

「炊き出し」に参加する

わたしたちのために、炊き出しのスタッフの方々が炊き出しのものとは違うお粥を準備して下さった。

お昼の12時30分ごろまでには公園の中から外の道路までずらっと人が並んだ。お年寄りが多かったが若い人もいた。順番に並び、食事が提供されるのを待っていた。わたしたちボランティアは、器にお粥を入れ人々に渡す人、フルーツを配る人、食器を洗う人などの役割を担った。

使用済みの食器を洗う人は10人ぐらいの流れ作業で行なった。わたしは、この洗いの列にいた。

時間になり、食事の提供が始まる。多くの人がその場（公園の一定の場）でお粥を食べる。食べ終わってまだ欲しい人は列の後ろに並ぶ。大概は2杯か3杯食べた後もう一杯分を持ち帰る。

また会場には、法律や医療、生活に関する相談の机が設置され、必要に応じて相談を受けることができるようになっている。

コロナ禍でも続く炊き出し

この炊き出しが始まったのは、この地域の老人クラブから教会を含む諸団体への呼びかけであった。30年に及び長い歴史の中で、本当に息の長い支援をこの地域の方々がしてこられた。今回の集いの準備の段階でコロナの感染者が増えつつあり、汀氏にこの状況で実行すべきかどうかをお伺いした時に、彼女は、この炊き出しは命に係わる事業でありコロナの状況がどうであれ必ず休まずに行なう。しかしボランティアで参加される方は、ご自身でご判断ください。というお話であった。

またこの炊き出しの準備中に、あるスタッフから、真冬であろうが、台風が来ようが、炊き出しを休むことはない、というお話を伺った。このような強い意志を持ったスタッフの方々もある程度ご高齢であった。ずっと守り続けてこられた彼らが向かったのは、‘命’なんだと思う。衣食住に関することは、一般のわたしたちから見ればそんなに重要に感じないかもしれないが、ここ（寿町の）におられる方々にとっては、一つ一つが命の危機に迫る問題であることを知らされた。

今回のプログラムの意義

今回のプログラムにおいて、それぞれの教区の担当者が担っている課題について向き合い分かち合うことの重要性と共に、‘命’に関わる共通の体験を行なったことはとても有意義であった。しかし、体験の記憶の新しいうちにシェアをすることができなかったことが残念だった。



2022年各教区人権担当者の集いに参加して

—「格差」の現実を見つめる—

司祭 サムエル奥 晋一郎 (京都教区)

12月8日(木)、9日(金)に行なわれた、各教区人権担当者会に京都教区の人権担当者として出席しました。

8日は横浜山手聖公会ホールに集合し、各教区人権担当者からの報告が行なわれました。報告をお聞きし、各教区の皆さんが地域に根ざした人権に関する活動をされていることを知ることができました。ことに北関東教区の報告では、昨年10月に開催された管区人権セミナーの報告も行なわれました。オンラインでの開催でしたが、東京教区の方と準備委員会を何度も持たれたりして、苦労と入念な準備によって開催されたことを改めて知ることができました。

また、翌日に研修に出かける寿地区炊き出しの前日オリエンテーションと学びがありました。日本基督教団神奈川教区寿地区センターの汀なるみさんが話してくださいました。寿地区は日雇労働者の町で各地から仕事を求めて人が集まる町でしたが、生活に困窮した人や一般社会では生きづらくなった人が集まる町になったという歴史を学びました。国や企業は寿地区に集った労働者を労働力の調整弁として利用していたという現実を知りました。

また、汀さんより、炊き出しのメニューはおじ

やで、数種類の味で味付けしているとお聞きし、さらに「切り込み」という言葉を教えてもらいました。この言葉は炊き出しの会報告書に書かれている寄せ場用語集に書かれている「野菜の切り込み」のことです。炊き出しのために水洗いした野菜を、食べやすい大きさに刻むことで、寿では大量に切り刻むので、「切り込み」と言うとのことでした。

9日は朝8時より、寿公園に集合し、昼に行なわれる炊き出しの用具のセッティングや材料の仕込みが行なわれました。高齢の方が多数来られるので、食べやすくするために「切り込み」も行なわれていました。

その後、寿地区の見学をさせて頂きました。案内してくださった方から、交通量が多い4つ角にもかかわらず、この地区には信号がないことを教えてもらいました。格差がある現実を知ることになりました。

その後、炊き出し活動に参加し、解散しました。この研修に参加して、日本社会での格差がより進んでいることを実感させられました。また、ある方が言っておられた「人権活動に関わることは私たちクリスチャンとして命にどう向き合うか」と言葉が今も印象に残っています。



(寿町の炊き出しに参加した聖公会各教区の人権担当者。)

特集記事の写真は、総主事矢萩新一司祭撮影

世界の聖公会の動向

二つの、クリスマスメッセージ

☆ マイケル・カーリー 米国聖公会総裁主教のクリスマスメッセージ

☆ ジャスティン・ウェルビー カンタベリー大主教のクリスマス説教

管区渉外主査

司祭 ポール・トルハースト

○マイケル・カーリー総裁主教による

2022年クリスマスメッセージ

➤ コアメリカではあまりなじみはありません
➤ が、イギリスでよく知られているクリスマス・キャロルに“Love came down at Christmas. Love all lovely. Love divine. Love was born at Christmas. Star and angel gave the sign.”（「愛がクリスマスに降りてきた うるわしき愛、神からの愛 愛がクリスマスに生まれた 星や天使のしるしと共に」）という曲があります。

私は年を重ねるごとに、神がイエスという人としてこの世に来られたたった一つの理由について確信するようになりました。それは私たちすべての創造主である神と、その神の子として互いに和解し、正しい関係になる道を示してくださいるためです。

イエスは、私たちが神と、そして互いに和解して生きる方法を示すために来られ、その方法が神の愛の道であることを教えてくださいました。神の愛の道こそ人生の指針であり、私たちの家族、地域、社会にとっての希望です。実際、それは全世界に対する私たちの希望なのです。神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛され、愛をクリスマスに降り注がれたからです。

さて、いいですか、私は69歳です。少しばかりこの世での人生経験を積みました。教会で私たちが話すような言葉は聞こえが良く、それはそれで素晴らしいのですが、素朴で理想主義的で非現実的でもあります。しかし、その代わりに考えてみてください。ただ名前を言うだけでいいでしょうか？ ユバルディ、ベスタビアヒルズ、ツリー オブ ライフ シナゴーク、コロラド・スプリングスのクラブQ（※全て銃乱射事件の発生場

所）、そしてウクライナ。

さて、神の愛の道は単純ではなく、非現実的でもありません。それこそ私たち全員の生き方です。キング牧師は、かつてこう述べました。

「闇で闇は追い払えない、光のみがそれを可能にする。憎しみで憎しみは追い払えない、愛のみがそれを可能にする」と。

そう、愛がクリスマスに降りてきたのです。そして私たちの何人かがここ教会で言い始めているように、「愛はいつもそこにある」のです。

今年の初め、私はチャールストンのマザー・エマニュエル・アフリカン・メソジスト聖公会を訪れ、信徒殺害事件の7周年記念式に参加しました。数年前、教会のメンバーが聖書の勉強のために集まっていたとき、1人の男が入ってきたので歓迎して招き入れました。すると男は翻って、多くの方々を殺害したのです。覚えていらっしゃりませんか？

犠牲者を敬い、偲び、第一発見者や医療関係者を覚え神に感謝をささげる7回目の記念日でしたが、それとは別の意味もありました。単に絶望の中で手を挙げるのではなく、互いに手を差し伸べ、袖をまくり、神の手を取り、互いの手を取り、愛という、困難で聖なる仕事を決意するためでした。それこそが癒しをもたらし、希望をもたらし、私たちが結びつけ、神が夢見て私たちに望んでおられる人になるように、私たちを高めてくれるのです。

愛がクリスマスに降りてきました。愛こそ道であり、愛はいつもそこにあります。それは、モーセの古代の教えにもとづいてイエスが教えてくださいました道です。

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力

を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分自身のように愛しなさい。』この二つの戒めに、すべての律法、すべての預言、神が意図されるすべてのものが表されています。

愛 がクリスマスに降りてきたのですから、今こそ世界中の愛の働きに改めて参与しましょう。ハワード・サーマン氏がかつて、「天使の歌が静まり、星と空が消え、王と王子たちが家に帰り、羊飼いたちが群れを連れて戻ってきたとき、クリスマスの働きが始まります。失われた人を見つけ、傷ついた人を癒し、飢えた人を養い、囚われた人を解放し、国々を再建し、平和をもたらし、心に音楽を響かせるために」と記したように。

愛がクリスマスに降りてきて、私たちの務めはいつでも愛を抱いておくことです。神はあなたを愛しています。神があなたを祝福し、私たちを全能の愛のみ手に抱いてくださいますように。

メリー・クリスマス

米国聖公会総裁主教

マイケル・B・カリー

○カンタベリー大主教による

クリスマス説教

➤ の3年間はかなり混乱していましたが、今
➤ 朝はここカンタベリー大聖堂で多くの方にお会いすることができ、とても嬉しく思います。

しかし今日、世界中が喜びと祝福に満ちたこの日に、私たちは暗闇を意識しています。アドベントの始まりのとき、私は少人数の仲間と共に、春にウクライナのブチャが解放された後に見つかった集団墓地に立っていました。途中、廃墟となった橋に立ち寄りました。この橋は、占領から逃れようとする住民が町から出るための唯一のルートでした。踏み板がワイヤーで荒く縛られ、壊れた橋桁を通ろうとして亡くなった人を示す十字架が並んでいました。では、偉大なる光はどこにあるのでしょうか？ ヨハネによる福音書の「光は暗闇の中で輝いている、暗闇は光を理解しなかった」ということばの真理と真実はどこにあるのでしょうか？

正直に言うと、今年は暗闇に打ち勝つことも

多くあったように思います。ロシアの不当で残忍な自国への侵略に耐えて抵抗し続けている、苦しみつつも勇敢なウクライナの人々に、今なお与えられている悪意とは何でしょうか？

貧困が計り知れない不安と苦難をもたらしている中、今なお寒さと飢えに苦しむこの国や他国の人々はどうなるのでしょうか？

アフガニスタンの女性たちは、教育も人間としての良識もすべて奪われているのでしょうか？

そして昨日のクリスマスイブでさえ、南スーダンでは数百万人が飢餓に直面しており、新たな不安定化の脅威が迫り、さらには一部の指導者による内戦が始まっているとの通報がありました。彼らの光はどこにあるのでしょうか？

もちろん、この世界で、ウクライナへの侵略を選択した人々、南スーダンやその他の苦しんでいる国を支配する人々へのメッセージは、まず世界中が注目し、気にかけて、支配者たちに正義の責任を取らせるだろうということです。

しかし驚くべきことに、私たちの正義への思いは、暗闇の中にある神の光から生まれます。言わば赤ちゃん？ 慈しみと愛に包まれた真の神は、自らを捨てて完全な人間となられたのです。

このような愛を、権力を握ろうとする支配者たちと比べてみてください。逝去されたエリザベス女王の振る舞いとは対照的です。彼女は幼子キリストに従い、奉仕の人生を送り、奉仕する人々の利益を優先されました。

誰の名前が記憶に残るのでしょうか？ 天国で神に迎えられるのは誰でしょうか？ 2018年に教皇フランシスコは、バチカンでの黙想会において南スーダンの支配者たちの足もとにひざまずき和平を懇願されました。ウクライナでもロシアを撤退させましょう。全世界が切望する停戦が実現しますように。

しかしこの世が忘れてしまうほど不公平や苦しみを目をつぶり、戦争に注意を払わない場所であろうと、神はイエスを通して存在しておられます。暗闇を愛する世界を神はあきらめることはありません。

私たちが歌う「ひさしくまちにし」というタイトル
の聖歌は、神は私たちと共にあるということ
を教えてください。支配者は人間の裁きからは逃

れられたとしても、貧しい者や苦しんでいる者を特に愛しておられる神の裁きからは決して逃れられません。ロシアや南スーダン、そして国連が記録している世界各地の50の戦争（私たちは脳裏にいくつ名前を挙げられるでしょうか）において、その支配者たちを追い詰め、すべての悪の力から解放できるよう記憶していきましょう。

この幼子イエスこそ神ご自身であり、私たちを見放さないことを示されています。

そしてそれこそが、私たちがここにいる本当の理由です。私たちの存在の奥底にある希望と信頼です。そう、音楽は素晴らしく、聖歌隊は卓越していて、建物は筆舌に尽くしがたいほど美しく、礼拝は感動的で、私の説教は……まあ、それはスルーしておきましょう！しかし、どれもそれ自体が目的ではありません。私たちはイエスに出会うためにここにいるのですから。彼こそ、神からの命と光の贈り物です。

イエス・キリストにおいて、神はここにいる私たち一人一人に手を差し伸べておられます。あなたと私に。小さな赤ちゃんの小さな手にも手を伸ばします。今この国で私たちの周にいる、家族を持たなかったり、刑務所の暗い独房や病棟の喧騒、小舟に乗っていたり絶望している人々、さらには死刑囚や邪悪な人にも手を差し伸べてくださっています。神は「あなたの心と人生に私を受け入れてください。あなたを取り囲み、侵す暗闇から解放します。私もそこにいたのですから」と言われるのです。そして続けてこう言われます。「あなたが誰であろうと、どこにいようと、何をしようと、私の中には赦しと希望、命と喜びがあります」と。

だからこそブチャでも、恐怖の中にあつてさえ闇は光に打ち勝てないのです。私たちはその地で地元の司祭に会い、戦争中、集団墓地から戦死者を掘り起こし、尊厳をもって幾人もを埋葬し直したことを教えてもらいました。

南スーダンでは教会の指導者たちが難民としてあちこちに追いやられ続けながら、平和のための共同体を築いています。そして亡命を求める人々に心と家を開き、広く隣人を愛し、地域社会に奉仕する人々がこの国にいます。私が最近会ったフードバンク・ボランティアの最年少は10歳でした。日々の生活の中で、彼らから神の愛が注がれています。

今、世界中で反乱が起きています。社会が最も軽視されていた人々（羊飼いたち）の前で、天使たちは、そうではないと繰り返し、喜びに満ちて歌い踊ったのです。愛の奉仕こそ、誰も見放さない神の愛に倣った大きな反逆の武器となります。彼らは暗闇の中で光を選び、死に直面しながら命を選び、無関心の中において愛を選ぶ反逆者です。そうすることで知らず知らずのうちに踊り、天使の声を響かせています。

愛とは、お互いに背を向けて諦めることの反対です。これこそが、神が暗闇に対抗する方法なのです。イエスを通して、前例のない新しい何かが生み出されています。克服できない光が闇の中で輝き、天使たちの歌や東方の博士たちの旅によって、ヘロデ王でさえも幼子を倒すことはできませんでした。

そして神はイエスを通して、私たちすべての人を暗闇に代わる可能性の担い手として召されたのです。イエス・キリストこそ、この世の悲しみと苦しみを癒す方です。

私たちは互いにあきらめてはなりません、神は私たちをあきらめないからです。神はこの幼子を通して解放し、赦してください。赦しとは難しいものです。それは神が十字架にかけられて自分自身を空っぽにすることによって可能となりました。どうしても不可能に感じてしまいましたが、赦しこそ希望を求め、光を愛し、優しさと慈しみを望む世界にとって不可欠な基盤であり、キリストの幼子の証しなのです。

羊飼いのように、私たちはキリストを自分の人生に迎えるよう招かれています。今問われているのは、意識的に、意図的に、明確に、自分の心と未来を神に開くかどうかということです。そして私たち一人一人が、キリストの存在こそすべてに光と命と自由をもたらすことに気づくでしょう。そして私たちも、この世界における光と命と自由の源となるのです。

さあ、今こそ羊飼いたちのように、「私たちが見聞きしたすべてのことについて、神を称え賛美する」ように、ここから出発しましょう。私たちの内なる生き方や心の沈黙だけでなく、キリストの幼子によって変えられた人々の声、叫び、踊り、歌の中においても。アーメン

新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- ・教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行ない、誰でも参加可能。
- ・感染対応をこれまで通り実施しながらも、教会活動、ことに礼拝における実践を可能な範囲で少しずつ拡大していくことを勧める。（あくまでも「可能な範囲で」）
- ・礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断（休止は主教に連絡の事）

- ・十分な感染対策を取ること。（衛生用具の再点検実施の事）
（十分な換気、消毒、場合によっては入場者制限、飲食の休止、地域状況にも留意する、外部に呼びかけるプログラムは感染状況勘案の上決定すること。）
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- ・引き続き警戒は緩めないこと。（No.9 遵守のこと）
- ・司式者のみ2種陪餐とし、奉仕者・会衆は1種陪餐とすること。
- ・堅信受領者総会開催については十分な感染予防に徹すること。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- ・各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝（公禱）の公開または休止

- ・感染状況の懸念が深まる中、各教会・礼拝堂での礼拝の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの状況にあわせて実施。
- ・幾つかの教会・礼拝堂は公開の礼拝を休止している。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開

- ・「礼拝指針」（更新・2022年6月版）の徹底。
- ・「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。

中部教区 礼拝（公禱）の再開

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言等下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。
- ・聖歌歌唱及び二種陪餐再開については主教に報告の上実施。

京都教区 各教会で判断

- ・感染者が増加しており、引き続き感染防止対策は行う。
- ・主日礼拝の方法は各教会の判断としている。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- ・各教会の事情には違いがあるので、各教会の判断を尊重する。
- ・リモートの活用などに引き続き取り組む。（リモートが使えない方へ配慮しつつ）

神戸教区 礼拝（公禱）の公開

- ・教区自粛基準（4/4改訂）に従って礼拝を実施。感染状況によって各教会牧師は教会委員会に諮り、教区主教と相談する。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- ・引き続き十分な感染症対策を行なう。（マスク着用、手指消毒、換気、会衆席の間隔確保等）
- ・主日礼拝へは無理に出席しない（体調不良、濃厚接触等）。

- ・陪餐（一種、二種）、聖歌の歌唱等は各教会で判断。

管区事務所 勤務体制の変更

- ・引き続き当面の間、平日（月曜日～金曜日）10:00～17:30の出勤勤務時間短縮体制。

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2023年1月20日現在）

◆本の紹介

吉岡容子著 『少女の命・女性の命、嵐の中から新たな命』（YOBEL 新書）

—イエスの問いかけの真髓を見つめる入魂の説教集—

著者、吉岡容子（よしおか・ひろこ）師は、東京藝術大学楽理科卒業。琉球大学講師、福岡女学院中学高校教諭を経て聖公会神学院を卒業。日本聖公会九州教区の諸教会を司牧されたのち退職された。現在は日本聖公会九州教区協力司祭。本書は吉岡司祭が2019～2022年に宗像聖パウロ教会、八幡聖オーガスチン教会、ハインド協働教会合同礼拝などで行なった説教を収めたもので、次の15編の説教から成る。

- ・「最後の審判・解放のとき」
（降臨節または待降節第1主日）
- ・「マリア、エリザベツ至福の祝福」
（降臨節または待降節第2主日）
- ・「天に栄光・地に平和」(降誕日)
- ・「ヤハウエは救い」(主イエス命名の日)
- ・「神から賜る家族の痛み」(降臨後第1主日)
- ・「神の摂理、それは退き」(降臨後第2主日)
- ・「見えざるホスト、その宴」(顕現後第1主日)
- ・「イエスの侵入、私が私であるために」
（顕現後第3主日）
- ・「神・あの方は足下から」
（大斎節または四旬節第3主日）
- ・「兄・かつ・弟、それが私」
（大斎節または四旬節第4主日）
- ・「わたしの救い・わたしの罪」(復活前主日)
- ・「ガリラヤに、ガリラヤに」(復活日)
- ・「少女の命・女性の命、嵐の中から新たな命」
（聖霊降臨後の主日）
- ・「神の愛・神の裁き・それはディレンマ？」
（聖霊降臨後の主日）

・「謎の問いかけ・イエスの問いかけ」

（降臨節または待降節前主日）

「聖書は答えの書ではなく、問いの書である。疑い、問い、詰め寄り、ぶつかっていく 一誰に? 「そう、神・あの方に」—その時、巡り始める新たな命の胎動を信徒と共に見つめてきた一司祭の魂の説教」と本書の帯文はうたう。まことに、その通りの心打たれる内容であることを、引き込まれるように一気に熟読して実感した。

例えば「いなくなった息子」のたとえ(ルカによる福音書15・11-32)。放蕩息子と父親の愛を記した「有名極まる話」に著者は昔から三つの疑問があった。①家庭が舞台の話であるのに女性が全く顔を出さない。徹頭徹尾、男性の話であるのは、どうして?②父親は祝宴を開くのを兄の帰宅まで待たなかったのは、どうして?③この後、兄と弟は、それぞれ如何なる人生を送ったのか? この疑問と格闘するようにして説教は進められる。

聖書の記述を鵜呑みにして解釈するのではなく、聖書が語っていない部分に疑問を持って、「あの方に」詰め寄っていく時に、この譬えの意味と「あの方が」わたしたちに問いかけているものが見えてくる…、と入念に説教は深められていく。全192ページ、入魂の説教集は、聖公会の信徒として学びの連続であった。2022年10月(株)ヨベル刊 本体1,100円 日キ販扱い

(記・広報主事 鈴木 一)

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nsk.org 広報主事(鈴木 一)宛て